

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
5 2	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
<b>題名 (原題/訳)</b>	
<p>Moderate coffee and alcohol consumption improves the estrogen metabolite profile in adjuvant treated breast cancer patients: A pilot study comparing pre- and post-operative levels.</p> <p>(中等度のコーヒーとアルコール摂取は補助療法を受けている乳癌患者のエストロゲン代謝を改善する： 術前、術後のレベルの比較試験研究)</p>	
<b>執筆者</b>	
Klug TL, Bageman E, Ingvar C, Rose C, Jernstrom H.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Mol Genet Metab. 89(4):381-389 (2006)	
<b>キーワード</b>	
アルコール、コーヒー、乳癌、補助療法、エストロゲン、	
<b>要 旨</b>	
<p>全てではないが多くの研究で、尿中 16<math>\alpha</math>-水酸化エストロン (16<math>\alpha</math>OHE1) に対する 2-水酸化エストロゲン (2OHE) の比率の高い女性で乳癌の危険性が低下し、より良好な予後であることが見いだされている。この研究の目的は、原発性 ER 陽性乳癌の 59 人の女性で、術前の 2OHE /16<math>\alpha</math>OHE1 比に関係している因子と、術前の診察と術後 3 から 6 ヶ月での最初の診察との間で比の変化を予測させる因子について同定することである。術前、術後の診察の際、身体測定、問診、2OHE と 16<math>\alpha</math>OHE1 の血漿レベル測定と CYP1A2*1F 遺伝子型測定の為の血液採取が行われた。術後、15 人がタモキシフェンを投与され、30 人がタモキシフェンと放射線療法を同時に受け、14 人が放射線療法のみを受けた。術前の 2OHE /16<math>\alpha</math>OHE1 比は腫瘍の特徴で補正していないが、1 日 2 から 3 杯のコーヒーを飲んでいる女性で有意に高値であった (p=0.009)。術前・術後の診察時で、CYP1A2*1F 対立遺伝子の検出は 2OHE /16<math>\alpha</math>OHE1 比が低値であることと相関していた (従前 : p=0.13、術後 : p=0.02)。術前・術後の診察の間で 69.5%の患者で 2OHE /16<math>\alpha</math>OHE1 比が上昇し、比の上昇と有意に関連していた因子はタモキシフェン・放射線療法同時療法 (p=0.006)、アルコール摂取の増加 (p=0.006)、多量のコーヒー摂取 (p=0.03) であった。年齢や CYP1A2*1F 対立遺伝子は比の上昇と相関していなかった。この試験的研究は、タモキシフェンと放射線療法の同時療法を受けた患者や、中等度のコーヒーとアルコールを摂取していた患者は術前、術後のエストロゲン代謝が改善していることを示している。</p>	